

# JAAC だより

## 特別レポート：“震災被災地、岩手県釜石市を訪ねて”（2）

### — 急がれる復旧に向けて —

7月5日、6日の2日間に渡って、釜石市出身の友人K氏と東日本大震災の被災地の一つである岩手県釜石市を実際に訪ねてまいりました。前号に続き、被災地で実際に私が目にしたことや、そこに暮らす人々から伺ったお話をもとに現地の状況をご報告してまいりたいと思います。

7月6日、午前7時。K氏と私はホテルをチェックアウトして朝の釜石市内に出てみた。釜石市内の町は、釜石湾に近い地域はほとんど津波によって大きな被害を被った。早朝から壊れた建物の片付けをしている人たちを目にする。『ここには〇〇があって、中学生のころ友人と良く来たところだ・・・』と、感慨深げに語るK氏のことばからは、その場所のかつての栄華を想像することしかできない。ほぼ完全に崩壊した建物にほんのお飾り程度にぶら下がっている看板には、かろうじて読める屋号が残っている。確実にこの場所に人の営みがあったことを物語っているが、それは過去のものでしかない。建物の外壁と内装部分を全て津波に流され、鉄骨だけが無残にも残されている。まるで、全ての血肉を削ぎ落とされ白骨化した死体のように映る。半壊、全倒壊、崩壊・倒壊の恐れあり、といったことを知らしめるためだろうか、黄色や赤色の旗が所どころの建物や瓦礫が積み上げられた敷地に立てられている。また、建物の外壁にはスプレーで「X」印が描かれている。それは病人や怪我人の治療にあたり、その重症度や救急の度合いを判断するトリアージにも似ている。倒壊寸前の建物の外壁や内装部分の壁には黒い線がくっきりと横に引かれている。津波はここまできたぞ、とその猛威ぶりを誇示しているようにも見える。

私たちはK氏の運転するトラックで海沿いの道を北に走り、被害が大きかった大槌町を目指した。大槌町にはK氏の親戚の方が住んでいる。海沿いの地区はほぼ壊滅状態だ。県道から見渡す限りの景色の中に、まともに立っている建物は皆無である。様々な征服や作業服を着た人たちが、町の復旧のために働いている。いたる所に設置された重機を操り、瓦礫と化した廃材や鉄骨を片付けている。人々が歩き、車が往来できる道を創っている。時折、慌しく行き交う自衛隊や警察の車輛とすれ違い、サイレンを鳴らしながら他の車を押しつけて通る救急車が疾走する。まさにここは戦場だぞ、と言わんばかりである。ここは五感で感じる全てのもので違っているのである。空気が違う、風が運ぶ匂いが違う。目に映る景色も、耳に入る音さえも、我々の日常目にあるものとは違っているのである。私たちのトラックはやがて大槌町吉里吉里（きりきり）地区に入った。ここは作家・劇作家の故・井上やすし氏の作品で知られる、「ひょっこりひょうたん島」や「吉里吉里人」のモデルとなったところの一つと言われている。今の50歳代以上の人であれば、子供のころに観たNHKテレビの人形劇「ひょっこりひょうたん島」を覚えていることだろう。私もその一人である。地元の人たちから「ひょうたん島」の愛称で呼ばれている「蓬莱（ほうらい）島」は大槌湾沖に浮かぶ小さな島だ。この島も地震と津波の被害により、島の灯台が倒れたそうだ。それにしても、道沿いの高台から見る海は美しい。太陽に反射してキラキラ光っている。ほんの4ヶ月前までは多くの観光客で賑わっていたであろう海沿いのホテルや旅館は、今は営業していない。あの日から、この場所の時計は止まっているように映る。

大槌町の役場も釜石市の役場と同様に、庁内の部署を分散せざるをえなくなっていた。ご存知のように、大槌町の町長は津波で亡くなられた。それだけに、この町の人々の復旧、復興にかける熱意と努力には胸を打たれる想いである。6月末の時点で、大槌町で死亡・行方不明になられた方は約1800人だと、役場の担当者が説明してくれた。かたわらでは、別の役場の担当者に何人かの町民の方々が復旧の遅れに対する不満や不安、焦りと怒りが入り混じった気持ちをぶつけている。仮設住宅ができて、全ての避難者が仮設住宅に移ることができるわけではない。仮に、仮設住宅に移っても買い物や通院にはかえって不便になった人も大勢いるという。すぐその目に見えているところに行くにも、目的の場所に行く道がないのである。瓦礫の周りを遠回りしていかなくてはならない。日が暮ればなかなか出歩けない。街灯が流されて、灯りが無いからだ。役場の担当者は、親戚を尋ねて来たK氏に訴える。『復旧作業に全力で努めていますが、県や国との調整が思うようにいかず、なかなか前に進まないのが現状です。今は、大槌町独自でやれることをやっているのが精一杯で、完全復旧のメドはついていません。復興なんてまだまだ先のことですよ。インフラやライフラインが復旧しなければ、復興なんていう目標は立てられません。』ここに来て、真の声を聞いたような気がする。K氏はメモ帳を手にして、掲示板に貼り出された安否不明者の名簿に目を走らせながら涙目をぬぐっていた。何事が起きていたのか、容易に理解できることである。

(カリフォルニア事務局： 照井)

－ やはり、海外留学生は企業に求められている －

この夏休み中に就職活動に励んでいる JAAC 生も多いことと思います。以前から本誌で回を重ねてお話してきましたが、多くの企業は海外留学生を求めているということを忘れないでください。ですから、皆さんには自信を持って就職活動に臨んでいただきたいのです。私の担当するカリフォルニア生からも就職に関する多くの相談を受けますが、皆さんにお伝えしたいことは、「必ず皆さんを必要としている企業がある」ということです。そして、「多くの企業が海外留学生の採用を望んでいる」ということです。日本の大企業といわれる会社が日本人留学生を採用する目的について回答したところ、次のような結果が出ています。「優秀な人材の確保：64%」、「国際感覚の発揮に期待：48.6%」、「社内活性化：34.6%」、「海外業務への従事：30.4%」、「自社の海外法人業務：25.7%」、「専門分野の人材補填：6.1%」となっています。また、これらの企業が日本人留学生に求める資質として、「コミュニケーション能力：54.2%」、「バイタリティー：43.5%」、「英語力：41.1%」、「基礎学力：15.4%」、以下、「発想の豊かさ」、「ストレス耐性」、「熱意」、「リーダーシップ」などがほぼ12%代で続いています（就職情報会社ディスコ調査より）。絶えず進化と変化が求められる企業のあり方からすれば、一様に日本の大学卒業生だけを採用しては、企業の変化も活性化も望めないのです。確かに企業が採用する日本人留学生の数は、日本の大学卒業生の採用数に比べて少ないでしょう。しかし、海外生活を送ってきた日本人留学生が持つ潜在的な能力や資質は、マジョリティーを占める日本の大学卒業生で構成される企業内では必要不可欠なものなのです。それだけ日本人留学生の存在意義は高いものなのです。今、皆さんに求められていることは、「相手ときちんと向き合って話をし、相互に意思の疎通ができるか」ということだと思います。それが、皆さんに求められている“コミュニケーション能力”ではないでしょうか。素晴らしい留学経験を相手にどのように伝えるかが、就職活動を成功させるための鍵になると思います。皆さん、頑張ってくださいね。

“国際化”と“グローバル化”  
その違いを正しく理解しましょう

「国際化に向けて・・・」ということばがもてはやされた時期がありましたが、もはやこのことば自体が時代遅れとなっているように思います。ここ何年かは「グローバル化」ということばが取って替わり、政治や経済、金融などの分野をはじめとして、人々の社会生活そのものも「グローバル化」してきていると言えるでしょう。そもそも、「国際化」とは異なる「国」と「国」との関係を深める意味合いで使われたことばであり、日本は文字通り「国際化」を推進してきました。「グローバル化」とは、「国際化」を更に発展させた考え方で、一つの「国家」という枠の中に納まっている独自の政治、経済、文化、民族といった要素において、その「国家」としての枠や垣根を取り払い、地球的規模でものごとを考えることなのです。つまりそこには、「国」や「国家」とか、「国境」などという概念は存在しないことになるのです。地球的規模という観点にはいたりませんが、EU（European Union：欧州連合）のように外交・安全保障政策の共通化と通貨統合の実現を目的とした統合体は、ヨーロッパ大陸内におけるグローバル化政策の一環として位置づけられるものではないでしょうか。この政策を日本（日本人）に置き換えてみれば、たとえば「日本」と「韓国」が統合されて、通貨も新しい呼び名で統合する・・・と言った具合です。一般的には想像できないことですが、「グローバル化」とはそういう意味なのではないでしょうか。その意味を正しく理解しないままに、やたらに時流に流されて「グローバル化」ということばだけが独り歩きをしているように思われます。これからの次代を築く若者たちにとっての「教育のグローバル化」ということを例に挙げれば、初等教育から高等教育までを日本という「国」の中だけで受けるのではなく、地球上のどの「国」や「地域」で受けても良いということになります。『いやいや、高校卒業までは日本で・・・』と固執するのであれば、「グローバル化」への意識はまだ成熟していないということです。日常、何気なく使っていることばの意味は重いものですね。

【編集後記】夏の全国高校野球大会が甲子園で始まった。これがないと日本の夏は終わらないな◆ますます円高傾向が強まっている。アメリカ国債の評価も下がったようだ。日本の産業の行く末は大丈夫なのだろうか。海外旅行者や留学生にとっては円高はラッキーなのだが■食物や食肉への放射能汚染が表面化し、日本各地での放射線量が問題になっているが、我々国民に正確な情報が公開されているか▲立秋を過ぎても残暑が厳しい。熱中症に気をつけましょう。（照井）

Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください。

◆就職活動をする JAAC 生の皆さんへ： 今年の秋にロサンゼルスとボストンでキャリアフォーラムが開催されます。開催予定は、ロサンゼルス（10月7日（金）、8日（土））、ボストン（11月11日（金）～13日（日））です。詳細は、<http://www.careerforum.net/event/> をご参照ください。この他、インターネット上では海外大学卒業生（見込み者）を対象としたジョブフェア等の情報が掲載されますので、随時、各自でインターネットや就職情報誌での検索を行ってください。

●JAAC 本社内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)